第４回 八戸市市政評価委員会　議事録

日　　時　　令和３年８月１７日（火）14 時 00 分～15 時 00 分
場　　所　　八戸市庁別館８階　研修室
出席委員　　９名　水野眞佐夫 委員長、圓山重直 副委員長、上野茂宣 委員、河村忠夫 委員、川守田礼子 委員、工藤貴博 委員、坂本禎智 委員、間山路代 委員、吉田博充 委員
事 務 局　　中村 総合政策部長、岩瀧 総合政策部次長兼政策推進課長、森林 参事、須藤 主査、毛呂 主査

【１．開会】

〇司会：
　それでは、定刻となりましたので始めさせていただきます。本日はお忙しいところ御出席いただきましてありがとうございます。只今から、第４回八戸市市政評価委員会を開催いたします。本日の会議でございますが、委員 10 名中９名の皆様に御出席いただいておりますので、八戸市市政評価委員会規則第５条第２項により、会議が成立していることを御報告いたします。また、本日の議事は、お手元の次第に沿って進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。
　それでは、資料の確認をしていただいた後、本日の議事に入りたいと存じます。本日の会議資料は、本日お配りいたしました、「次第」、「席図」、「八戸市市政評価委員会委員名簿」、資料１といたしまして、「政策公約評価書（案）の修正点について」、資料２といたしまして、「パブリックコメントの実施結果について」、資料３といたしまして、「政策公約評価書（最終案）」でございます。また、第１回にお配りした、お手元の緑色のファイルの資料でございます。「市長４期目　政策公約　まちづくりの新たなステージへ」、「平成 29 年度の政策公約評価書」、「市長４期目　政策公約　３年間の進捗状況」。こちらの方もお手元に御準備いただきますようお願いいたします。資料については以上でございますが、過不足等がございましたら、事務局までお申し付けください。
　それでは、議事に入ります前に、水野委員長から御挨拶をお願いいたします。

【２．委員長挨拶】

◎委員長：
　第４回の委員会、皆様お忙しい中お集まりいただいてありがとうございます。本日は、いよいよ政策公約評価書を完成させる委員会となりました。本委員会、約１時間の予定で進めさせていただくことになります。どうぞ御協力いただきたいと思います。議題は

２件ということで、１件目はパブリックコメント。このパブリックコメントにつきましては、第３回の委員会で提案されました評価書案の修正案を踏まえて、事務局及び正副委員長の方で最終案を決定させていただいて、その案を基にパブリックコメントが実施されております。パブリックコメント１件、６項目の指摘があったということで、その委員会として回答案も準備されています。その点について議論させていただきたいと思います。

議案の２件目は、この最終案をもって完成案ということで、御意見をいただけたらと思っております。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

〇司会：

ありがとうございました。

ここから議事に入りますので､水野委員長よろしくお願いします。

【３．案件１　パブリックコメントの実施結果について】

◎委員長：

はい。それでは、しばらくの間議長を務めさせていただきますので、御協力お願いいたします。まず、案件１の「パブリックコメントの実施結果について」事務局から説明をお願いします。

〇事務局

それでは、事務局より案件１「パブリックコメントの実施結果について」御説明いたします。大変恐縮でございますが、着座にて御説明させていただきます。

まず、パブリックコメントの実施結果の御説明の前に、パブリックコメント実施時の評価書について御報告いたします。パブリックコメント実施時の評価書は、第３回の委員会後、修正内容につきまして正副委員長に御確認いただき、確定後に委員の皆様にメールで送付させていただいてるところでございますが、第３回委員会からの修正点について御確認いただきたいと思います。

お手元の資料１を御覧下さい。資料１の表につきまして、修正部分を抜粋したものとなります。表の左側は第３回でお示しした評価書案、右側がパブリックコメントで閲覧に供した評価書案となっております。右側のパブリックコメント実施案の下線を引いてる箇所が、修正した部分になっております。資料の１ページ目は「はじめに」についての修正点を、資料２の２ページから４ページまでは「総括評価」の修正点を、同じく４ページの最後の箇所につきましては､「政策３　地域の活力創造」における修正点を記載しております。委員の皆様には、パブリックコメント開始前に、修正後の評価案を送付してございますので、大変恐縮でございますが、詳細な説明は省略させていただきたいと存じます。資料１の説明は以上でございます。

次に、資料２を御覧下さい。「パブリックコメントの実施結果について」御報告いたします。パブリックコメントの実施期間は、７月９日から８月７日の 30 日間実施いたしま

したが、その結果として、１人の市民から６件の御意見をいただいております。いただきました意見の内容については、２ページ目の「政策公約評価書（案）への意見と市政評価委員会の考え方について」を御覧下さい。こちらの資料は、提出された意見と、意見に対する市政評価委員会の考え方を、案として記載したものでございます。パブリックコメントの手続きでは、いただい意見と意見に対する考え方について、市ホームページで公表することになっておりますので、市政評価委員会の考え方につきましては、委員の皆様に御確認、御審議いただきたいと思います。

それでは、まず、私から№.１から№.６までを一括して御説明させていただきます。まず、№.１でございますが、意見をいただいた箇所は、「Ⅱ　政策公約の総括評価」の「２評価一覧」でございます。資料３の「政策公約評価書（最終案）」の 13 ページから 17 ページが該当ページとなります。意見の内容は、「政策公約の実施状況は、当初計画した数値目標等に対する成果指標ではなく、着手したか否かだけである。事業に着手さえすれば、率はおのずと０％が 100％となります。市民感覚からすれば、100％は完了であり、〇×表記でも理解できるものがことさら評価一覧で 100％を並べ、手前みそとも取れる公表の在り方に違和感があります。」という御意見をいただいております。

それに対する市政評価委員会の考え方は、「当委員会では政策公約の評価に当たって、御意見の点を含め議論した結果、市民の視点に立ち、分かりやすく客観的にお示しするという考えのもと、政策公約が実施されているかどうかを「実施率」という形で表しています。また、実施率についても、より実情に沿った評価となるよう対応事業の実施状況に応じて実施率を設定した一定の基準に基づき、算出をしております。そちらにつきましては、評価書（案）の６ページを御参照いただけたらと思います。さらにその評価結果を、市民の皆様により分かりやすいかたちとするため、評価一覧としてお示ししたところです。」と、委員会としての考え方を記載しております。

次に、№.２ですが、意見は「評価書の全般」についてでございます。意見の内容は、「市民アンケートで「わからない」と答えた場合「点数なし」となります。４期目３年間以上経過した下で、30 事業中 12 事業で 30％以上「わからない」と回答があります。中には、「公契約制度の導入」45.9％、「地元中小企業の経営強化について」40.6％と、４割以上の方が「わからない」と回答しています。しかし、検証などをされず、不必要な判断として捨てられてしまったのではないでしょうか。決して回答を棄権したのではないと思いますし、評価委員会の在り方からも、丁寧な確認作業が必要だったと思います。」との御意見をいただいております。それに対する市政評価委員会の考え方として、「当委員会では、市民アンケート調査に置ける「わからない」等の回答割合等について、政策公約全体、４つの政策分野、重点施策のそれぞれで確認し、御意見をいただいた「わかならい」が多い重点施策も含め審議を行っております。また、その結果を踏まえ、「Ⅱ政策公約の総合評価」において、政策公約全体における市民アンケート調査の「わからない」の回答割合が 24.8％であったことなど、市の取組が市民に十分に認知されていない現状を指摘し、今後は取組内容や取組の成果の周知方法を工夫し、各種施策に対する市民の認知度向上を図るよう、委員会意見を付しております。」このことを委員会の考え

方として説明しております。

次に、資料２の３ページを御覧下さい。次に、№.３でございますが、意見をいただいた箇所は、「Ⅰ　評価書の作成に当たって」の「４　政策公約の評価方法」でございます。資料３の「政策公約評価書（最終案）」６ページが該当ページとなっております。意見の内容は、「市民評価が４点満点評価中 2.3 点で、中間点２点を上回ったことをいい評価とされています。市民にとって４点満点評価は分かりにくく、市民アンケート選択肢では、２点は「どちらともいえない」、３点で「まあまあ達成されている」となっているだけに、中間点２点はどのような意味を持っているのか、物差しとなる評価基準の説明がほしいと思います。」との御意見をいただいております。それに対する委員会の考え方といたしまして、「政策公約の市民評価は、政策公約の達成度について「十分に達成されている」を４点、「まあまあ達成されている」を３点、「どちらともいえない」を２点、「あまり達成されていない」を１点、「ほとんど達成されていない」を０点として、４点満点で評価しています。中間点の２点については、２点を基準として点数が下回れば「あまり達成していない」に近づき、点数が上回れば「まあまあ達成されている」に近づくことから、達成度の分岐点となるものであり、達成度の評価に当たっての物差しとして適切な評価基準と考えます。」ということを、委員会としての考え方として説明しております。

次に、№.４ですが、意見をいただいた箇所は「Ⅱ　政策公約の総括評価」「１　総合評価」「（３）　総括評価」の部分でございます。資料３の「政策公約評価書（最終案）」の 12 ページが該当ページとなります。意見の内容は、「総括評価で評価委員会は５段階評価を行っています。「政策１」2.5 点、「政策２」2.4 点を「十分実現されている」、「政策３」2.2 点を「ある程度実現されている」、「政策４」2.2 点を「相当程度実現されている」としています。５段階の評価基準と根拠をもってこの評価を導き出されたのか、もう少し丁寧に説明がほしいと思います。」との御意見をいただいております。それに対する委員会の考え方といたしまして、「４つの政策分野の評価に当たっては、①政策公約の実施状況と②政策公約の市民評価の２つの評価指標を用いた基準に基づき、「十分実現されている」、「相当程度実現されている」、「ある程度実現されている」、「あまり実現されていない」、「ほとんど実現されていない」の５区分で評価しています。評価区分の基準は、①・②ともに平均値以上の場合「十分実現されている」、①又は②のいずれかが平均値以上の場合「相当程度実現されている」、①・②ともに平均値未満かつ中間値以上の場合は「ある程度実現されている」、①又は②のいずれかが中間値未満の場合は「あまり実現されていない」、①・②ともに中間値未満の場合は「ほとんど実現されていない」としております。」との記載を、委員会としての考え方として記載しております。

次に、資料２の４ページを御覧下さい。№.５でございますが、意見をいただいた箇所は、「Ⅱ　政策公約の総括評価」の「１　総合評価」、「（３）総括評価」でございます。資料３の「政策公約評価書（最終案）」の 12 ページが該当ページとなっております。意見の内容は、「総括評価で唯一、政策４－⑥「シティプロモーションの推進と移住相談窓口の充実」の市民評価が 1.9 点と低かったことに触れ、移住の成果は見えているものの市民に認知されておらず評価が低いものになったと、客観的評価を加えられている点は

良かったと思います。しかし、移住政策にとどまらず、大型公共施設の維持管理増大等はメディアでも大きく取り上げられ、市民生活にとって関心があるところです。行財政改革関連等に関わる重要施策に対して、市民目線を大切に、事業実施に対する市民への説明や行政参加への取組が足りていたかなど、市民の関心や理解が深まるよう専門性のある評価検証に踏み込まれても良かったのではないでしょうか。」との御意見をいただいているところでございます。それに対する市政評価委員会の考え方といたしまして、「当委員会は、市長４期目の政策公約に掲げた項目について、達成状況の客観的な評価を行うことを目的として設置され、この度、その評価結果を本評価書としてとして取りまとめたところです。御指摘の公共施設の維持管理費増大などの個別事業が抱える課題については、本評価とは別において検証等が行われるものと考えておりますが、今後の当委員会における市政評価に当たっては御意見をいただきましたように、より一層市民目線を大切に、市民への説明の充実を図って参りたいと考えております。」というところを、委員会としての考え方として記載しております。

次に、№６ですが、意見には「その他」についてでございます。意見の内容は、「小林市長の下で各種審議委員等をされている方々が、市政評価はとても難しさがあったのではないでしょうか。」との御意見をいただいております。それに対する市政評価委員会の考え方として、「今回のパブリックコメントは、政策公約評価書案の内容についても、広く市民からいただく主旨で実施しているものであることから、政策公約評価書関連の御意見ではないため、今回のパブリックコメントの主旨には合いませんが、参考として承ります。」ということを、市政評価委員会の考え方として記載しております。

パブリックコメントの実施結果についてきましては、事務局の説明は以上でございます。

◎委員長：

はい。ありがとうございました。このパブリックコメントに対する市政評価委員会の考え方としての回答案は、最終案は市のホームページで公表されるということです。それも加えまして、本委員会の考え方として回答してよいのかどうかということを議論していただければと思います。何か御意見等ございますでしょうか。いかがでしょう。

●Ａ委員：

よろしいですか。

◎委員長：

はい。お願いします。

●Ａ委員：

今回のパブコメの５番目の意見ですが、市政評価委員会としての考え方というところ

で、中段ほどの御指摘に公共施設うんぬんというところですが、「今評価とは別に市において検証等が行われるものと考えておりますが」、というところは評価委員会として回答してもいいのでしょうか。別途やるのですか。

◎委員長：
　委員会として言える内容であるかどうか。

●Ａ委員：
　検証等が行われる予定があれば、ここに「行われるものと考えますが」というものはあってもよろしいかなと思うのですが。行われる予定があるのかどうかというところは、お聞きしたいと思っていました。

◎委員長：
　今の御指摘に関して事務局から何かコメントいただけますか。お願いします。

〇事務局：
　予定があるかという事については今のところ把握はしておりません。ただこの案を作らせていただいたのは、委員会としての立場からすれば、そういった市が検証を行うということについて述べるべきではないかということで、考えを書かせていただいたというところでございます。なので明確にこういった日に予定をしてるとか、そういったことがあるわけではないということでございます。

◎委員長：
　今の御意見をいただいて、事務局ではこの文面のままでよいと考えますか、どうでしょう。

〇事務局：
　事務局の案で御提出させていただいておりますので、現状の案でよろしいかと考えておりますが。

◎委員長：
　皆さん、どうでしょう。委員から御指摘があったのですが。こういう検証の取組というのは、これまでの市政の中でも行われてきているものなんですか。

〇事務局：

特別に、検証委員会などを立ち上げることもあるかと思いますが、当然事業を進めていくにあたっては見直し等、さまざま確認をしながら進めていくものでありますので、またそういったことも含めて、検証等というものをお考えいただければよろしいかと思います。

〇事務局：

１つ追加をさせていただきますと、市の事業は毎年度予算がありまして、それに対して決算が必ずございます。それから９月に議会において決算特別委員会というのがございまして、さまざまな予算に対してどの程度適正に執行されているか議会の中で議論されていくものです。当然に、その中で市関連等も決算の審議において、多いのか少ないのかというさまざまな御質問、御意見をいただき、その意見を踏まえまして、市の各部課は効率的、かつ、効果的な事業の展開に向け予算の見直しをしていくという作業を定例的に実施しているものでございます。

◎委員長：

我々の役割の中ではないけれども、こういうことで行われるだろうと我々は考えているということでどうかと思います。いかがでしょう。私の案は原文のまま、提案文のままということですが。

●Ｂ委員：

同じ意味なんでしょうが、検証等が行われるものと考えておりますがというと、投げやりな感じにも受け取れるので、市において検証等が行われることが適切だと考えておりますがとか、ここの場で個別にこの事業の点数がいくつということは、できないでしょうから、市の中の会議で、適切とかそういう答え方のほうが分かりやすいですよね。

◎委員長：

はい。Ｂ委員ありがとうございます。今、御提案頂いた、「行われることが適切と考えております」、「行われることが適切であると考えておりますが」といった形に修正する事でいかがでしょうか。Ｂ委員さん。

●Ｂ委員：

同じ意味かもしれませんけれども、そのほうが分かりやすいと思います。おまかせします。

◎委員長：

文面含め考えることが一番いいと思います。まずゴールが見えている気がするのであえて提案します。「検証等行われることが適切であると考えておりますが」でここは修正。御意見がなければこの方向でと思うのですが、いかがでしょうか。

ではこの点は５項目、ナンバー５のところです。回答案の我々委員会の考え方ということで修正させて頂きます。

●Ｃ委員：

あとすいません。

◎委員長：

はい。

●Ｃ委員：

同じ５ですけれども、市政評価委員会の考え方の最後の行です。

◎委員長：

はい。

●Ｃ委員：

「市民への説明の充実を図ってまいりたいと考えております」、これは評価委員会のほうでこれから説明していくわけではなくて、市のほうでやってほしいところです。私たちがこれから説明するわけではないですから。市の立場と私たちの立場を区別しておきたいのですが、これから市への説明を私たちが図っていきますとはならないと思います。「図っていただきたい」なら分かるけども。

◎委員長：

分かりました。Ｃ委員のコメントは分かりましたが、ただ事務局は評価委員会というのは４年に１回必ず立ち上げられるので、メンバー構成は変わってくるけれども、こういう役割を委員会は担っていきたいということを、委員会のコメントとして出したい、そういう提案でよろしいでしょうか。

〇事務局：

はい。さようでございます。

◎委員長：

ということですけど、どうでしょう。本委員会からというよりは、４年に１回市を評価する委員会でこういうことを、これを何か考えておりますと、何かうまく変えられないのかな。次の委員会につないでいくという形で、ちょっと文面が出てきません。どうですか、副委員長。

●副委員長：

そうですね。ただ、「この次の委員会に」と言ってしまうと、何かすごくおざなりな感じはします。例えば、「今後市民への充実を図っていきたいと考えております」、「これから充実を考えていきたいと考えている」というような形で、「今後」とかを市民の前に、下から 2 行目のところの点の次に「今後」などを入れ、今言ったニュアンスを出すというのも１つの考え方と思っています。

この次の委員会は４年後なので、我々はその責任を持てないのですが、これからそういう形でやりたいという意志、これは市もそうだと思いますが。やはり市民に説明するということはこのコメントをくださった方も非常に分かってくださっているところで、やはり今後、市にもそういうふうに努力していきたいんだっていうメッセージも含めて、そういう考え方もあるかなと思います。すぐには出てこないのですが、そのような所でどうかと思いますが、どうでしょう。

◎委員長：

委員の思いも、その今後という文字で込められると思うんですけども、それはいかがでしょう。

●Ｃ委員：

はい、そうした文言があればいいと思います。私達がこれから何回もやってくわけではないから。やっていきたいとは考えていますけど。私達がやっているみたいな感じになるから、そこがどうかと思いました。

◎委員長：

はい、ありがとうございます。

●Ｄ委員：

やっぱりこれは委員会が主語になりますので、今の最後の今後といっても、「図ってまいりたい」となると、どうしても委員会が図ってまいりたいとなってしまうので、委員

会としては、市に対する提案という形になると思うんです。そういった何かもっといい適切な文言があればいいんですけれど、確かに違和感はこのままだったら残るという感じはします。

◎委員長：
　はい、ありがとうございます。
　委員会から市への提案というような形での文言調整が可能かどうか、事務局から何か案はありますか。どうでしょう。

●Ｃ委員：
　２番の項目で最後のほうが少し似ているような感じがするのですが、「委員会意見を付しております」と最後はなっていますが、２ページの最後ですね。「充実を図るべきと意見を付しております」という形にしたらどうかと思ったのですが。５番だけが書体がちょっと違うような感じがしてですね。そこまではきちんとまとめられていると思うのですが。「適切な考えであると考えていますが」とあるのですが。５番だけがちょっとお節介かなということで、「意見を付しています」となればどうかと思うのですが。どうでしょうか。

●副委員長：
　それでいくと報告書の資料３でございます。12 ページ、総括評価というところに、今おっしゃられたことが書いてございますけれど、そういう考え方もあると思います。図の上の市の取り組みが市民に十分に認知されていない現状も認識されたと書いてございますので、おっしゃっている意見については評価しているという意味を入れますと、今言ったような形で「市民への充実を図ってまいりたい」ではなく、「そういう意見も評価書に入れているところ」という形に変えてしまえば収まりがつくと、そのような考え方もございます。
　実際にそういう意見が出て、そのような形で総括のところ、12 ページが変えられてございますので、今おっしゃられた件については、そういう形にすると。Ｎｏ５はこれまでどうも不十分ですよねという言い方になっていて収まりつきませんが、実際には議論されてそのようになっていますので、そのように修正するとしっかりとした回答になる可能性もございますが、よろしいでしょうか。

◎委員長：
　ありがとうございます。具体的なこの５番の後半部分ですね。ひとつの段落文の、しかもその最終部分に関しては、12 ページのこの総括評価のところを理由にして、ここに

ちゃんと明記しているという形で、検討したということをパブコメの回答案にも盛り込んでいくという方向性ですね。

●副委員長：
　そうですね。ですから、市民への説明について、「今後」ではなく、「市民への説明の充実を図ることを提言したところでございます」という形に、変える必要があるかもしれませんが。そのような形で収めると、全部質問者の意見についても、実際ここで議論して、そのようになっている所でございます。以上です。

◎委員長：
　いや、分かります。僕は最終文面を今決めればいいかなと思いましたが、最終文面は確認する必要があるかもしれませんが、その方向性で、この市民への提言を盛り込んでいるという事を、ここに記載するということで、ここは事務局と正副両委員長で最終文面は確認させていただくということで、その内容を盛り込んで変更するという形でよろしいでしょうか。

●一　同：
　はい。大丈夫です。

◎委員長：
　はい。ありがとうございます。

〇事務局：
　事務局から、申し訳ございません。今の資料の 2 の 2 ページのところで、Ｃ委員からもございましたが、「意見を付しております」というような書き方をしております。こういった方向性で修正して、調整をしていただくということでよろしいでしょうか。

◎委員長：
　はい。よろしくお願いします。あとパブコメの回答案に対して、御指摘、御質問、御意見等ございませんでしょうか。

●Ｂ委員：
　６番はどんな意図でしょう。とり方によりだいぶ幅があるんですが。ちょっと扱いづらい雰囲気しますね。

◎委員長：
　一応、委員会のメンバーというのは、この評価書の５ページに記載されていて、区分という領域の中から選ばれているということにはなっています。そういう事をおっしゃっているのではないとは思うのですが、ちょっと難しいですね。

●Ｂ委員：
　つまらない話ですみません。先に進めて。

◎委員長：
　やはりできる範囲内で丁寧な回答をさせていただきたいですね。何か、御知恵ありますか。この回答案では冷たい印象もあるという点が、無きにしも非ずかと。評価書の中身というか、委員会の役割と関係ないのではないかという。

●副委員長：
　あまり深く説明もできないし、このくらいの形で回答できないのかなと、私は感じました。前まではちゃんと真摯にやっているけど、これはまったく別な視点というか別な観点からなので、趣旨に合わないというのは、はっきりと言い、提言コメントとして伺っていきますという、これしか回答できないのかと私は思いました。

◎委員長：
　はい。実は私も同感です。いかがでしょう。

●Ｂ委員：
　全部説明するしかないので、これはこっちに書いてある話ですから。どういうふうな決め方をしたか。ここの人が点数つけているわけではないので、そういう目で見られても困りますよということですね。

◎委員長：
　しっかり受け止めたうえで、現状の案でよろしいでしょうか。

●Ｂ委員：
　はい。

◎委員長：

はい、ありがとうございます。それでは、パブリックコメントの実施結果について、そしてその意見に対する回答案について、１箇所のみ、事務局と正副委員長で中身は御承認いただいているので、文面は我々でお任せいただくということでよろしくお願い致します。よろしいでしょうか。

●一同：
はい。

【４．案件２　政策公約評価書の最終案について】

◎委員長：
はい、それでは、評価書の最終案と一番大切な部分です。今の議論も含めまして、パブリックコメントに回答したということも踏まえて、この最終案でいかがでしょうか。
今のパブリックコメントに対する回答案を踏まえたうえで、特に変更する箇所はないのかなという提案です。御議論いただけたらと思いますが、いかがでしょうか。
パブリックコメントでいただいた評価基準等も含めて、かなりこの委員会でもしっかりと議論させていただいたからこうして評価を進めてきたわけですけれども、私自身は我々が議論したことを的確にまとめられているのはないかなという、一番大切なことは、やはり一番見やすい形で、副委員長の御指摘を踏まえ、本当に前半が、しっかりと全体が見えてくるような形でまとまっていて、細部にわたっては前回の第３回目の委員会で御指摘をいただいたうえで、修正を加えさせていただいたということで、特にＤ委員からは前段のところでしっかり御指摘いただいているように記憶しておりますが、そういうところもしっかり踏まえたうえで、いかがでしょう。

●Ａ委員：
それこそ、今まで中身のことにつきましては、もう個別でやってきていましたので、多分本件につきましてはこれでよろしいんだと思います。

◎委員長：
はい、ありがとうございます。ということで、この最終案は、次回、小林市長に提出という形になると思いますが、最後にもう一度、副委員長よろしいですか。

●副委員長：
はい。今、仰っていただいたように、内容については十分に議論させていただいていますし、パブコメもまさに我々が議論していたことをきっちりと御指摘いただいたところなので、よろしいんではないかと思います。

◎委員長：

はい、ありがとうございます。それでは今日案件の二つ目です。最終案について御承認をいただいたということで、ありがとうございます。ということでその他について事務局から特にございますか。

【５．その他】

〇事務局：

事務局からでございます。事務局から、評価書の市長の提出について御案内いたします。評価書の提出は８月 31 日、火曜日の午前 10 時からとなります。場所は、本館２階市長室におきまして、水野委員長から市長に評価書を提出いただくことになっております。委員の皆様におかれましても、御都合がよろしければ、是非御同席いただきますようお願いいたします。今日、お手元に出欠連絡票を置かせていただいております。出欠について、お決まりの場合には、お帰りの際に事務局にお申し付けいただきますようお願いいたします。なお、評価書の市長への提出後につきましては、できるだけ速やかに市のホームページや各施設にて評価書を公表させていただきます。また、評価書については、後日改めまして委員の皆様に製本した評価書をお配りしたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。事務局からは以上でございます。

◎委員長：

はい、ありがとうございます。８月 31 日ということで、出欠連絡票、お時間、御都合のつく委員の皆さんには是非御出席いただきたいと思っております。

この委員会が終わるにあたって一番最初に皆様に申し添えておくべきでしたが、各委員から一言いただくようにということで事務局からきつく言われていたのに、そのことを皆様にお伝えしていなくて、急にふることになりますけれども、まずこの出欠できるか日程を確認いただきながら、最後に一言、本委員会の委員を務めていただいて、一言お言葉をいただければなと思います。Ｃ委員からよろしくお願いします。

●Ｃ委員：

はい、分からないながらもいろいろと皆さんとお話をすることが出来まして、なんとか終わりに近づいてきたなと思っておりました。前回もお話したように、例えば最近の傾向とかわかりやすいように写真をいっぱい載せているというのが、これも実現出来ていまして良かったかなと思っていました。いろいろ訳の分からないことを言ったと思いますけども、なんとか私の意見もあり、非常にやれて良かったと思っていました。ありがとうございます。

◎委員長：
　ありがとうございました。Ｅ委員よろしくお願いします。

●Ｅ委員：
　はい、初めて出席させてもらって今日最終回ということですけども、こういう評価書を作っているというのは非常によいことだと思います。さらに進めて続けていってほしいと思います、以上です。

◎委員長：
　Ｆ委員お願いします。

●Ｆ委員：
　はい、評価委員という非常に重大な役割を務めさせていただき、力不足で大変申しわけなかったんですけども、よい経験をさせていただきました。今回の委員会を通じて八戸市の取り組みがより深く理解出来たかなというふうに思っております。
　関係の皆様方の御尽力により深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

◎委員長：
　ありがとうございました。Ａ委員お願いいたします。

●Ａ委員
　はい、私も不勉強でございまして、特に委員の皆様がその中でも水野委員長、圓山副委員長からいろいろと御指導いただきましてありがとうございました。おかげさまで最後まで務めることができました。
　今後、私共も引き続き市とともに、施策の実現に対していろいろ御協力いただく部分だとか、こちらから能動的に動く部分もあるかと思いますので、是非また引き続き御指導のほど、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

◎委員長：
　ありがとうございました。それではＤ委員お願いします。

●Ｄ委員：
　一回目と二回目、ちょっと私用がありまして欠席という形で本当に申しわけなかったなと思っております。こういった形で最終案がまとめられたということですけれども、

この書類を日々というか、第三回目に向けて読ませていただいたときに、相当のことが市の中でやられているということを理解できましたし、それを今後また理解と共にそれを推進する役割を果たしていければなというふうに考えております。本当に色々とありがとうございました。

◎委員長：
　ありがとうございました。Ｇ委員。

●Ｇ委員：
　はい、今回このような膨大な資料を作成している事務局の皆さま大変ご苦労様でしたし、本当に委員の皆様から教えていただいたこともたくさんあり勉強になりました。
　私共も、さまざまな市の事業を請け負っているわけですけれども、やはりこのようなアンケート結果にもありましたとおり、市民に見える形で市の事業を実践していかなければ伝わっていかない部分だと感じておりまして、私共も今後の事業の推進のためのサポートをさせていただきたいと思っております。ありがとうございました。

◎委員長：
　ありがとうございました。Ｂ委員お願いします。

●Ｂ委員：
　最初この話がきたときには委員をやる側が点数をつけるものなのかなと思ったのですけど、実際のところは職員の説明もあって分かりやすく、個別に自分の好き勝手につけるわけではないということで、安心して出来ましたし、非常に今回いえるのは写真も増えて良くなったなと思っております。ちゃんと今までの意見もまとめられておりましたし、出しても恥ずかしくない物だと思いますし、よかったなと思っております。以上です。

◎委員長：
　ありがとうございます。では、副委員長お願いします。

●副委員長：
　前回もこの作成に加わらせていただきまして、前回は着任早々で右も左も分からない状態で加わったのですが、今回もそういうふうな形で同様に加わらせていただきまして大変ありがたく思っております。
　前回と今回と比べるというのはいけないんですけれども、でも大きく変わったのは、

各委員がおっしゃられるように市民が分かりやすいようにという、特に総括のところに写真を入れて、それでだいぶ分かりやすくなったというふうなところ。それから前回も結構な意見が色々出たんですね、委員の方々が非常に積極的に前向きにコメントを出していただいて、これを市の方々が真摯に受け止めて先ほどコメントがございましたように反映されている。こういう意味では、題目があって、よろしくというのとは全然違った委員会で非常に良かったのではないかと。

ただし、１つやはり課題というのは先ほどパブコメにもありました、それから委員の中でも十分に話されましたが、市のほうで一生懸命議論したり、先ほど前の委員会でもありましたけど、成果が出ているんだけれど、それが市民に伝わっていない。これは非常にもったいないなということがございますので、今後しっかりやっているものについては、ちゃんと市民の方に分かるような、いろいろな方法でお知らせして、市民のために市役所の方たちが頑張って下さっている、その方たちの成果が目に見えるようにするというのは今後の課題というので少し残ったというのがございますので、この報告書を参考にして、今後、市がよりよい行政を実施できるようになったらよろしいなと思っております。

◎委員長：

ありがとうございました。

では、最後に私から一言、もう本当にまずは各委員皆様にお礼申し上げたいと思います。本当に、４回目の委員会で皆様の御意見をいただいてこの委員会の審議を支えていただいて。特に副委員長には御自身もおっしゃっていましたけど、前回の委員会経験ということで、経験も活かして本委員会の運営をサポートしていただいて、本当に皆様に心から御礼申し上げます。どうもありがとうございました。

パブコメの最後にあったように、この委員会は八戸市民になってやっと２年が過ぎ３年目で私が委員長ということで、しかも選ばれた理由が学識経験者ということで、決して行政や政策の専門家でもない、本当に筋肉の細かなところを私の学識といえばそういう領域を研究してきたのもあったんですけれども、今回こういう役をいただくことにより、本当に八戸の市政、行政というものを全般的に見させていただいて、本当に、多くを学ばせていただいたと思っています。特に、副委員長もおっしゃったように、今後市民にどうこの魅力を伝えていくか、市政の発展の様子を伝えていくかというのは私の今の現職にでも非常に重要なことなのかなと。実は小林市長からやはり若い人たちに八戸地域学というか、八戸の魅力をどんどん伝えていきたいねという、そういう学問の構築を目指して高専さんや工大さん、学長、校長がいらっしゃいますが、連携してやはり若い世代にこの八戸の魅力をしっかり伝えていけるような、そういう形でやはり市を応援していけるよう、八戸の魅力を改めてしっかり受け止めて、この魅力を次の世代に伝え

ていけるように取り組んでいけたらいいなと、そういうエネルギーをもらった委員会でした。本当に、まだ最後の役割が残っていますけども、サポートしていただいて本当にありがとうございました。

はい。今日お休みなっている委員には、ぜひとも委員会のほうから機会がありましたら感謝と御礼をお伝えしていただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、事務局のほうにお返しします。

【６．閉会】

〇事務局：

ありがとうございました。最後となりますが、事務局を代表いたしまして、中村総合政策部長から一言お礼の御挨拶を申し上げます。

〇事務局：

それでは、事務局を代表いたしまして、一言皆様に御礼を申し上げたいと思います。まずもって、水野委員長を始め委員の皆様には本年４月から４回にわたり、終始熱心に御議論いただきましたことに厚く御礼を申し上げます。只今、簡単に回数「４回」と申し上げましたが、市政の評価をするに当たっては大変な御苦労があったものと感じております。この評価書にも記入はございますが、「市政評価に当たっては非常に多岐にわたっている」と、まさにそのとおりでございまして。先程、Ｇ委員からもありましたとおり、私共もかなり数多くの細かい資料を提出させていただきました。これらを御検分いただきまして、委員会に向けてどのような評価をするかということを御思案なされての御参加、非常に多くの時間を費やされたものと拝察いたします。改めまして、皆様の委員会に臨むお姿に敬意を表させていただきたいと思います。

また、今回、市の方に対しまして、取組が市民に十分に伝わっていないという御意見も賜りました。まさに今回、この評価書を市長に御提出いただいた後には、全庁でこの評価書を共有させていただきますが、こういった意見があったということを改めて全庁の各課宛てにお伝えし、引き続き市の方としては市民への御説明、ＰＲにも力を入れていきたいと考えております。この委員会は本日終わってしまいますけれども、このような御縁をいただきましたので、引き続き各課に対しまして、または我々総合政策部に対しましても、様々御意見を頂戴できればと考えております。

結びでございますが、委員の皆様方の御健勝と、今後益々の御活躍を祈念いたしまして、御礼の御挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございました。

〇事務局：

それでは、これをもちまして、「第４回 八戸市市政評価委員会」を終了させていただきます。本日は、大変ありがとうございました。